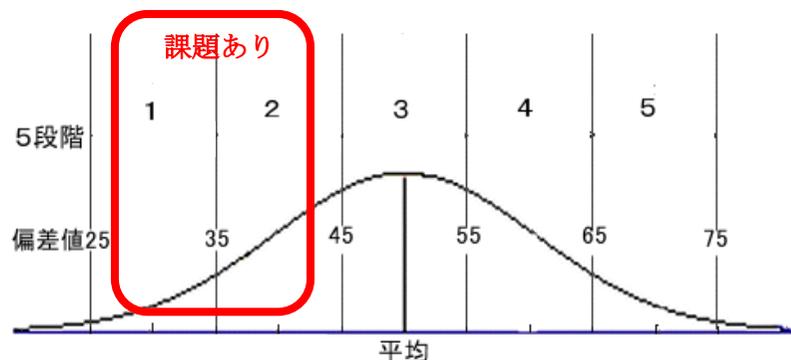


- 資産の総合評価は、資産総量の縮減という目的を達成するために実施しています。その手段として、各施設の状況を定量・定性の両面から総合的かつ多角的に評価することで、施設を継続して利用すべきか、または施設の見直しの必要性や方向性を示します。
- 資産の総合評価（2巡目）では、以下の事項を評価指標及び評価項目としており、今回の総合評価は以下に基づき評価を実施しております。
- 今回の総合評価において分析している利用度の期間は、H29年度～R元年度までのデータです。そのため、新型コロナウイルス感染症の影響が少ないデータであると考えております。

① モニタリング評価 … 総合評価対象施設の抽出

評価指標		ベンチマーク（1巡目と同じ：コミュニティ系施設の例）
データ評価	利用度（※）	ア. 稼働率又は面積当たり利用者数が5段階評価で2以下（グループ内相対評価） イ. 稼働率が40%未満
	運営コスト（※）	ウ. 面積当たり運営コストが5段階評価で2以下（グループ内相対評価）
1巡目の評価結果等		<ul style="list-style-type: none"> <li>総合評価結果の評価理由等を精査 ・当面継続のうち残耐用年数5年以下</li> <li>経過観察施設（計画的保全対象施設で、データ調査で過去3年連続課題あり 等）</li> </ul>

《参考》相対評価の設定方法



【例：図書館（R3年度モニタリング実績より抜粋）】

		利用度（人/㎡）	運営コスト（円/㎡）
相対評価		122.36	57,849
	5	246.8～	0～28,030
	4	163.8～246.7	28,031～47,890
	3	80.9～163.7	47,891～67,770
	2	0～80.8	67,771～87,640
	1	—	87,640～

※相対評価1または2：課題あり

② 総合評価

データ評価結果についての考察	<p>モニタリング評価におけるデータ評価（※）結果についての考察を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>データ評価結果（利用度、運営コスト）の考察（施設グループ内と比較してどうか、動向はどうか）</li> </ul>
利用実績の検証と現用途の需要見通しの検討	<p>利用状況を中心に詳細な分析を行います。また、利用者層や人口動態等から、将来の需要見通しについて検討します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>利用実績の検証（直近の稼働状況、部屋別・利用時間帯別の利用状況、利用者の特性などを分析）</li> <li>将来における利用状況の変化（人口動態はどう変化するか、それにより利用状況がどう変化するかを分析）</li> <li>将来における効率性の変化（利用状況の変化から、効率性はどうかを分析）</li> </ul>
再配置パターンの検討	<p>周辺に位置する公共施設について、施設機能や利用状況などから再配置パターンを検討します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>検討すべき再配置パターン（周辺公共施設の立地状況の確認、それを踏まえて再配置の可能性を検討）</li> <li>留意すべき制約条件（複合化及び修繕の状況、その他設置条件（要望・寄付といった設置経緯等）を分析）</li> </ul>
資産の活用ポテンシャルの検討	<p>資産の立地特性を踏まえ、公共・民間それぞれの活用ポテンシャルを検討します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>重視すべきエリア・資産の特性（用途地域及び交通アクセスを分析）</li> <li>公共としての活用ポテンシャル（資産の立地特性を踏まえ、他用途の公共サービスへの転用の可否を検討）</li> <li>外部転用のポテンシャル（資産の立地特性を踏まえ、民間による活用ポテンシャルを検討）</li> </ul>